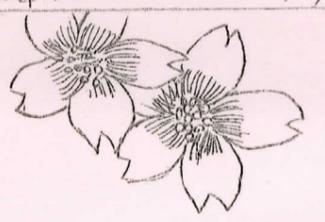


# いろいろは新聞

2015年(平成27年)4月発行  
第27号  
発行元:福生市立中央図書館  
福生市龍川850-1  
tel 042-(553)-3111  
http://www.lib.fussa.tokyo.jp/



## オススメ本コーナー

紹介されている本は、  
すべて市内の図書館に  
所蔵されています。  
見つからない時は、  
窓口で聞いてみてね!



**I-Time to Play (上)**  
男子高校生で売れっ子ライトノベル作家をしているけれど、年下のクラスメイトで声優の女の子に首を絞められている。  
I-Time to Play (上)  
時雨沢宏之 / 著 黒星紅白 / イラスト  
株式会社KADOKAWA アスキー・メディアワークス (二〇一四年)  
電撃文庫

長いタイトルが本のあらすじ、と言っても過言ではない小説です。主人公は、男子高校生の小説家で、ただのクラスメイトだと思っていた、とても青が高くて、とても髪が長い眼鏡女子はなんと声優!? 出版業界の仕組みが分かるのも、おススメポイントです。主人公の名前が最後まで明かされないのが、主人公になった気分が読むことができますよ☆  
※二〇一四年六月現在、五まで刊行。



**L'CHRONOM**  
ログ・ホライズン  
①異世界のはじまり  
櫻乃ままれ / 著 ハラカズヒロ / 画  
株式会社KADOKAWA  
エンターブレイン (二〇一二年)

そのおればはんにしようぜつーがっ。その一言に小さい影が鏡男に輝きを纏った形にたまたまたき込んでいだろうか? そう許可を求めるのは小柄の美女アサシン、アカツキ。変態発言をして蹴られたのはガーディアン直継。「アカツキさんは運動神経いいんだなあ」と、一人のぼほーんとしている眼鏡はシロエ。今三人が居るのはゲームの世界、ゴブリンやドラゴンなどの定番のモンスター達がゴゴロといる世界。シロエ達はこの世界の仕組みやルールを変えていく。私は、この中でシロエが一番好きです。シロエなのに講じる策が腹黒すぎて付いたあだ名が、腹黒眼鏡。シロエの真つ黒発言を読んで楽しんでみてくだい。  
※二〇一五年三月現在、九巻まで刊行。



**しろいろの街の**  
その骨の体温の  
村田沙耶香 / 著  
朝日新聞出版 (二〇一二年)

しろいろの街の、その骨の体温の、村田沙耶香 / 著。朝日新聞出版 (二〇一二年)。資金繰りが難しくなり、ニュータウンの建設が中途半端に止まったと同時に、中学二年生の結佳の身長も止まった。外見や運動神経、テストの点数によって明確に順位付けされたクラスの中でひっそりと生きていた結佳だったが、幼馴染みの伊吹が結佳よりずっと上の順位にいる。「伊吹が自分が下の女の子ならいいのに」。伊吹への憧れを持って余す結佳は、自分がクラスの人間関係を冷たく見下ろすことで自尊心を保っていることに気が付く。新品の履物のような街、他人を驚かすような大人と子供の間に閉じ込められた肉体和自尊心。幾重にも裏がれた場所にいることを諦めていた結佳が、みっともなくとも一生懸命もがき、明るいほうへと出ていく物語。  
※第二六回三島由紀夫賞受賞、第一回フ라우文芸賞受賞。



**街の灯**  
北村薫 / 著 文藝春秋 (二〇一三年)

自分としては珍しくミステリの紹介です。時代は昭和七年。これといて目立ったところのない土族令嬢、花村英子のもとへ現れた新しい専属運転手は、当時とても珍しかった女性の運転手、別宮(ベック)みづ子であった。度胸もあれば腕も立つ、謎の多い別宮を英子は「ベッキーさん」と呼ぶ。そんな別宮との何気ない会話をきっかけに、英子は身の回りで起こる様々な事件の矛盾や疑問を見い出していきます。ベッキーさんの名前が生まれた初対面の二人の話「虚栄の市」、英子の兄を悩ませる暗号に挑む、のんびりとした「銀座八丁」、一転して本格ミステリ「街の灯」と、読んでいて飽きない三篇が収録されています。大正浪漫、昭和モダンといったあたり時代の好きな人は是非とも読んでみてくだい。



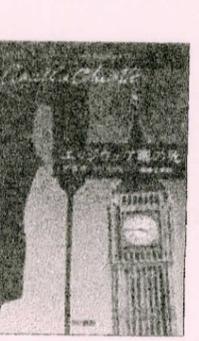
**だいじな本のみつつけ方**  
大崎晴 / 著 光文社 (二〇一四年)

野乃香は、日直日誌を職員室に届けた後バックを教室に取りに向かう途中で水道に本が置いてあることに気づく。持ち主が取りに来るだろうと思っただけで後を後にする。しかし、バッグを持って戻るとまだ本が置いてある。野乃香は、気になってブックカバーを見ると荒木真琴の本だった。野乃香は、荒木真琴の愛読者だったので、気になっただけがなかった。帰りに本屋によってその本があるか見に行くとなかった。どうしても野乃香はその本が読みたいので知り合いの青山さん(店員)に聞いてみると、新しい本の発売は、来週だという。読んでみると、どんな本はまっていますか。本が好きじゃない人でも読みやすいと思うので、是非読んでみてくだい。



**ひとり語り**  
吉行和子 / 著 文藝春秋 (二〇一三年)

ひとり語り 女優というものは吉行和子 / 著 文藝春秋 (二〇一三年)。東京生まれで職業は女優さん。一九五六年、アネの日記で初主演、日本アカデミー賞優秀主演女優賞、紀伊國屋演劇賞個人賞など、舞台・映画での受賞多数。色々な映画で活躍した彼女、順風満帆に見えるが実は波乱万丈な女優人生を歩んできたのです。ぜひ読んでみてくだい。



**世界地図の下書き**  
朝井リョウ / 著 集英社 (二〇一三年)

朝井リョウ / 著 集英社 (二〇一三年)。両親を交通事故で亡くした太輔がひきこもられた「青葉おひさまの家」けれど太輔は大人がそばに来ると体がこわばってしまう。それは、その前にいた伯父さんの家で暴力を振るわれていたから。そんな太輔の新しい家族になってくれたのは、おませな美保子、おっとりとした淳也と元氣な麻利の兄妹。そして優しい佐藤里美だった。「はじめられたら逃げればいい。笑われたら、笑わない人を探して行けばいい。うまくいかないって思ったら、その相手がほんとうの家族だったとしても、離れればいい。そのとき誰かに、逃げたって笑われてもいいの(中略)逃げた先にも、同じだけの希望があるはずだもん」さまざまな事情を抱えた五人の巣立ちの物語。



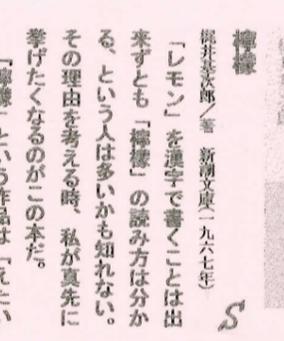
**Body**  
秀和システム (二〇一一年)

はじめて作る球体関節人形 アイミ / 著。秀和システム (二〇一一年)。人形の関節を球体にし、脚・胴などを空洞に作ることで中にゴムを通すことができ、それが筋の役割を果たして頭や手足が可動になる人形を球体関節人形と言います。作る人によって雰囲気や造り、粘土のへらや彫刻刀などを駆使して作る総合芸術とも言える世界は奥が深いですが、題名の通りはじめて作る方にとっても親切な本です。ドール本体、目の自作、洋服の作り方なども載っていて物作り好きの血が騒ぐ一冊です。一体作ると人体の構造にも詳しくなれます。もちろん眺めても楽しめる本です。



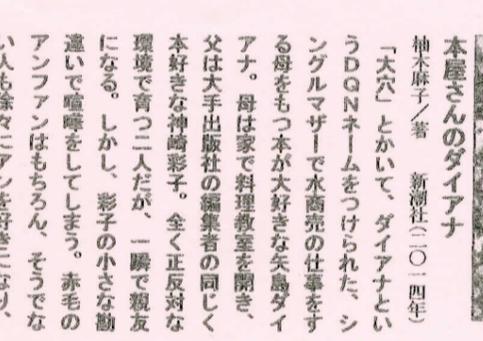
**エッジウェアの死**  
アサヒ / 著 新潮社 (二〇一四年)

エッジウェアの死 アサヒ / 著 新潮社 (二〇一四年)。福島正実 / 訳 早川書房クリスティール文庫七 (二〇一四年)。アリスのハンブレイ・ダンブレイみたいな脚型型にオシャレなヒゲを持つベルギー人名探偵ボワロ。彼の解決したものの「失敗」したエピソードです。ある日ボワロは、人気モデル女優のショーに足を運び、そこで美しい女優カローッタに声をかけられます。彼女は夫であるエッジウェア男爵との離婚を望んでおり、ボワロに説得して欲しいと頼むのですが、数日後に男爵は何者かに殺されてしま...。普段は女性に関心を寄せないボワロが珍しく盲目になります。でも盲目になつてると時ほど、そのことに気が付かないんだよね...。と同意してしまつても? ※一九七九年刊行の文庫もありま



**数学ガール**  
結城浩 / 著 S.Bクリエイティブ株式会社 (二〇一七年)

数学ガール 結城浩 / 著 S.Bクリエイティブ株式会社 (二〇一七年)。僕が高校時代の話。僕は、昔から数学の展開が好きだった。中学時代と同じく静かに授業をやり過し、誰も来ない図書室で数式を展開する三年間だと思っていた。あの少女たちと出会うまでは...。最初のきっかけは、ほくとミルカさんと出会った校庭の大きな桜の木の下。彼女はいきなり僕に問題を出してきて...。この本は名前の通り数学好きの少女や男の子の話です。色々な数式が書いてあって、解説もあるのでわかりやすいと思います。高校の数学の先取りはこの本でお勧めです。 ※シリーズ本の所蔵もあります!



**檸檬**  
櫻井基太郎 / 著 新潮文庫 (二〇一七年)

檸檬 櫻井基太郎 / 著 新潮文庫 (二〇一七年)。「レモン」を漢字で書くことは出来ずとも「檸檬」の読み方は分かる、という人は多いかも知れない。その理由を考える時、私が真先に挙げたくなるのがこの本だ。「檸檬」という作品は「えたいの知れない不吉な塊」が私の心を圧えていた(八頁)という重苦しい一文から始まる。「レモン」がイメージさせる爽やかさは欠片もない。それがほんの数年後には「変にくすぐったい気持が街の上の私を微笑ませた」とまでに変化している。この間一体何が起きたのか。とても短い作品なので、是非の「大爆発」ぶりは「自身で確認して欲しい。ちなみに、この本は短編集だ。「Kの昇天」「ある崖上の感情」「のんきな患者」等々、気になるタイトルのものから読んでみるのもいいかも知れない。 ※他社刊行の本も所蔵しています。